

薬連ハイライム

令和6年度 第1回全国会長・幹事長拡大会議 が開催される

令和6年5月30日(木)、東京日本橋において全国会長・幹事長拡大会議が開催された。橋本常任総務の司会で開会され、4月より新会長となった岩月進会長より挨拶があった。

続いて、本田あきこ参議院議員よりご挨拶いただき、公務のため出席が叶わなかった神谷政幸参議院議員のメッセージが司会より読み上げられ、川田幹事長より今期より新たに就任された都道府県会長、幹事長の紹介があった。

議事に入り、岩月会長より活動報告として4月1日付けで新たに選任された役員、顧問、相談役について、丹羽副会長からは役員会の会務分掌、委員会委員、令和6年度年間主要会議開催予定について、川田幹事長より6月5日開催予定の薬剤師首長・地方

議員意見交換会について、丹羽副会長よりブロック協議会の開催について説明があった。続いて丹羽副会長より都道府県薬剤師連盟主催「若手指導者育成フォーラム」について、原口副会長よりSNS活動方針、薬連タイムズの公開内容等広報活動について、丹羽副会長より会務報告、川田幹事長より自由民主党薬剤師問題議員懇談会の最新名簿及び総会開催について説明があった。

続いて行われた質疑応答において、奈良県後岡会長、福島県長谷川会長、秋田県安田幹事長、大分県山田副幹事長、和歌山県大桑幹事長より質問がなされ執行部より回答があった。

協議では、大澤副会長より責任負担金について説明があり、和歌山県稲葉会長、三重県西井会長より質問がなされ執行部より回答があった。

最後に、川田幹事長の閉会の挨拶で本会議は終了した。

オレンジ日記

時節到来 ～来夏に向けて～

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけが2類相当から5類に見直されてから約1年が経過し、ようやく従来のように広域に移動できるようになりました。各都道府県および各支部の皆様から多くのご案内をいただき、国政報告やご挨拶をさせていただいておりますことに感謝申し上げます。

全国各地で医薬分業の歴史に触れる中で、私は第19代日本薬剤師会会長の石館守三先生の次の言葉を紹介させていただいております。

日本では、製薬とか、有機化学とか、薬学のレベルは高くなったが、その薬学の学問を国民に還元するのは薬剤師の務めである。

しかるに、わが国の薬剤師の現状をみると、正当に社会的に評価されていないように思える。薬剤師に力がなかったら、薬学の本当の将来はない。(昭和45年)

この言葉には、薬学を学んだ薬剤師が国民のために力を発揮して、正当に評価されるようにならなければ薬学の価値はない、という意味が込められていると思っています。

薬剤師議員である私も薬剤師として、国民の命と暮らしを守るため、長引く医薬品の供給不足の現状をしっかりと捉え、製造・品質の管理体制の整備、中間年改定を始めとする薬価引下げの影響、さらには経済安全保障の観点での原薬調達に関する課題解決に向けた議員活動の一つひとつについて、全国を訪問させていただく中で精一杯お伝えし、皆様からのご指導もいただいて政策実現につなげてまいります。

政幸だより

医薬品供給問題について厚生労働委員会 で質問しました

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



令和6年4月4日の厚生労働委員会で質問に立ちました。本年4月1日より、製造販売業者は6ヵ月以内に医薬品の供給不安が生じるおそれが判明した場合、厚労省に供給不安報告を行うこととなりました。この情報を基に、同じく4月1日から厚労省のホームページに、医療用医薬品供給状況が掲載されています。供給に関する情報が事前であれば、薬剤師は事前に用意可能な代替品を検討することが可能になります。代替処方提案するなどして、処方医と連携を取り、患者さんが薬を手に行うことができる環境を作ることが重要であり、効果的と考えます。さらに、同種同効薬の検索機能が充実すれば、前述のようなやり取りがしやすくなることが期待されます。

これら情報の効果的な集約や提供方法について厚労省に質したところ、令和5年度補正予算事業において、薬局や医療機関などの関係者がより利用しやすい形で報告できる方法と、見やすい形で見るができるシステム化に向けた検討を開始したとの回答がありました。昨年4月25日の厚生労働委員会において、医薬品供給情報が随時反映されるような仕組みを要望したことを受けての厚労省の対応に感謝の言葉を述べると共に、説明のあった調査研究事業は補正予算による事業であることから、来年度も予算化し、さらに使い勝手の良い方法を検討するよう要望しました。

その後、5月14日の厚生労働委員会で質問に立ち、後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会の進捗について質した上で、安定供給確保については法制度にしっかりと位置付けるべきとの意見を述べました。

医薬品の供給問題には薬価、産業構造、感染症の流行など様々な要因が絡み合っており、問題解決には時間がかかる可能性もありますが、政府や関係者と情報交換を行い、問題解決に向けてしっかりと対応して参ります。